

おたふくかぜ(Mumps)とは

1.症状

おたふくかぜウイルスの感染により、耳の下(耳下腺)が腫れて痛くなります(顎下腺のみの腫れもある)。80%は左右とも腫れますが、片側だけのこともあります。腫れは5-7日間でひきます。熱は出ないこともあります。不顕性感染(=感染しても発病しない)が30-40%あります。しかし、**耳下腺腫脹で来院される方の大部分は、片側性、周囲におたふく感染がない、繰り返す、1歳時・小学入学前予防接種歴がある事からおたふくかぜではありません。パラインフルエンザ1,3サイトメガロウイルス、EBウイルスも耳下腺炎をおこします。**

潜伏期は3週程度で発症1週前から感染性があるとされています(過剰隔離は無駄)。直接治療する薬はありません。痛みをおさえる薬を処方します。痛いときは冷湿布もよいでしょう。

3.家庭で気をつけること

(1)食べ物:

刺激の強いもの、よくかまなくてはいけない食べ物は避けましょう。痛みが強いときは、かまずに飲みこめるものがよいでしょう。

プリン、おかゆみそ汁、ポタージュ、とうふ、りんごのおろしなどがよいでしょう。

(2)入浴:

高い熱のあるときや痛みが強いとき以外は入ってかまいません。

4.合併症

(1)高率に髄膜炎を合併

ムンプスでは約2/3の方で髄液の細胞数の増加があるとされています。高熱、激しい頭痛、頻回の嘔吐をきたし、入院が必要な場合もあります。

(2)聴神経障害を起こすことがあります(最新 Nelson 小児科学 Mumps 難聴の記述がありません)。1000名1名。聴力検査で偶然に発見される難聴の原因の1つはおたふくかぜと考えられています(片側難聴は日常生活には不自由がないので気付かれません)。

(3)睾丸炎、卵巣炎、膵臓炎を合併することがあります。かかる年齢が上昇すると増加します。不妊症の原因の1つ。

5.保育所・学校

学校保健法では出席停止期間は「耳下腺の腫脹が消失するまで」と定められています。おたふくでなくとも、耳下腺(顎下腺)が腫脹(腫れが見た目でわかる)している間は登園、登校はできません。

6.検査

おたふく抗体価を測定する場合があります。耳下腺腫脹時のおたふく IgM、耳下腺腫脹1カ月後のおたふく IgG、中和抗体(NT)の上昇が確認されれば、おたふくに罹患したことが証明されます。

7.ワクチン

弱毒生ワクチン、1歳過ぎれば接種を受けられます。1歳誕生日のMR(麻疹・風疹)とおたふく、水痘、ヒブ・肺炎球菌の同時接種。また入学前のMRおたふく同時接種も。水痘・おたふくはこどもが必ずかかる疾患ですが、かかった場合5-10日程度家庭・病院療養が必要です。